

令和 5 年度幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業 成果報告書

団体名：山口県教育委員会

1. 事業の実績

(1) 事業目的

現場のニーズに即した、専門的な内容を学ぶことができる認定講習及び希望聴講（単位修得者以外にも希望する者の講座受講）を開設することで、一種免許状所有者の割合を増加させるとともに、幼稚園教諭等の資質・能力の向上を図ることを目的とする。それにより各園の教育活動の質の向上、ひいては全県の幼児教育・保育の質の向上を図る。

(2) 事業概要 ※実施日程を必ず明記すること。

① 開設講座について

幼稚園教諭免許状上進のための免許法認定講習を、以下の通り開設した。

開設科目名	講師	講習期間	受講者 上限	講習会場
保育内容指導法（表現）	山口大学教育学部 准教授 川崎 徳子	7月31日～8月1日	30人	セミナーパーク
教職論	鳴門教育大学 教授 湯地 宏樹	8月 7日～ 8日	30人	オンライン
幼児心理学	山口大学教育学部 教授 白石 敏行	8月17日～18日	30人	オンライン
教育原理	宇部フロンティア大学 教授 伊藤 一統	8月26日～27日	30人	セミナーパーク
保育内容指導法（環境）	山口大学教育学部 教授 中島 寿子	9月 2日 11月 4日	30人	オンライン セミナーパーク
幼児と言葉	梅光学院大学 教授 寺井 知香	10月21日～22日	30人	セミナーパーク

② 日程について

令和5年度は、以下の日程で認定講習を実施した。

日 程	9:00 ～ 9:15	第1時限 9:15～ 10:45	休憩	第2時限 11:00～ 12:30	昼食	第3時限 13:30～ 15:00	休憩	第4時限 15:15～ 16:45
第1日目	オリエンテーション	講義①	休憩	講義②	昼食	講義③	休憩	講義④
第2日目		講義⑤	休憩	講義⑥	昼食	講義⑦	休憩	講義⑧

講義終了後、試験又は10日以内にレポート提出

(3) 成果（事業の実績の説明）

① 講習の内容について

令和5年度は、以下の内容で講習を実施した。どの科目も、受講料は1,550円、単位修得証明発行手数料は700円とした。

	開設科目名	講習内容（概要）
1	保育内容指導法（表現）	1 表現とは ○ 領域「表現」にかかわる現代的課題 ○ 保育内容 領域「表現」 2 子どもの発達と表現 ○ 領域「表現」における発達と学び ○ 小学校へつながる育ち 3 表現を深めるー文化とのつながりー ○ 表現を深める支援の在り方 ○ 子どもの表現の育ちをつなぐ 等
2	教職論	1 子ども理解とマネジメント ○ マネジメントとは何か ○ 幼稚園教育要領等についての理解 ○ マネジメントの現状と課題 ○ 組織マネジメント 2 リーダーシップとフォロワーシップ ○ リーダーシップとフォロワーシップ ○ 保育キャリアステージ 等

	開設科目名	講習内容（概要）
3	幼児心理学	1 乳幼児の発達 2 愛着と親子関係 3 家庭のなかの子ども 4 からだと健康 5 学習と動機づけ 6 情緒と欲求 7 子どもの認知的メカニズム 8 道徳性と性役割 9 ことばとコミュニケーション 10 対人行動 11 社会的認知 12 取り巻く世界についての理解 13 発達をつまずき 14 学習意欲喪失への援助・介入 15 保育実践の評価と心理学 等
4	教育原理	1 教育とはなにか(1) 2 教育とはなにか(2) 3 現代の教育制度(1) 4 現代の教育制度(2) 5 教育するということ～教育のスキル～ 6 生涯学習社会と現代の教育 7 変化する教育：現代教育の改革と課題と 等
5	保育内容指導法（環境）	1 幼稚園教育要領で育みたい資質・能力 2 幼稚園教育要領のねらい・内容と10の姿 3 「保育内容環境」とは 4 子どもたちの自然とのかかわりを支える 5 子どもたちの物や遊具とのかかわりを支える 6 子どもたちの数量・図形・標識・文字等とのかかわりを支える 7 「子どもだけに見える世界」を体験する 8 前回の講習について振り返る 9 ある幼稚園の実践をもとに「保育内容環境」について考える 10 課題レポートをもとに「保育内容環境」について考える 11 文化や伝統にどのようにふれていくか 12 まとめ 等

	開設科目名	講習内容（概要）
6	幼児と言葉	1 「言葉」を考える（幼稚園教育要領を中心に） 2 子どもの言葉の発達過程 3 言葉を育てる児童文化財～絵本に着目して～ 4 課題のある子の言葉・言葉の発達が気になる子 5 言葉で伝え合う・子どもの書字について考える 6 ワークショップ：カタルタ、短歌を作ろう、絵本の読み合い 7 絵本について 8 まとめ 等

## ② 受講者数

### ア 概要

受講者は、認定講習、希望聴講併せて、延べ73人であった。開設科目別申込者数の認定講習受講者数、希望聴講受講者数は、以下の通りであった。

開設科目名	認定講習 受講者数	希望聴講 受講者数
保育内容指導法（表現）	11人	3人
教職論	8人	1人
幼児心理学	10人	1人
教育原理	9人	6人
保育内容指導法（環境）	7人	5人
幼児と言葉	11人	1人
合計	56人	17人

受講者数は、想定を下回った。令和元年度の認定講習の開設以来受講してきた参加者の内、上進可能な単位数を修得した者が増えてきたためだと考えられる。また、希望聴講については、今年度から実施したため、趣旨や内容、認定講習との違い等についての周知を十分に図ることができず、受講者数が伸びなかった。

### イ 受講者の内訳

令和5年度認定講習を受講した20人の受講講座数、年齢、所属、経験年数別の内訳は、以下の通りである。

受講講座数別	年齢別
1 講座受講・・・4人	20代・・・2人
2 講座受講・・・6人	30代・・・7人
3 講座受講・・・4人	40代・・・6人
4 講座受講・・・2人	50代・・・5人
5 講座受講・・・2人	60代以上・・・0人
6 講座受講・・・2人	
経験年数別	所属別
0～5年・・・5人	県内国公立幼稚園・・・4人
5～10年・・・4人	県内公立認定こども園・・・3人
10～15年・・・7人	県内私立幼稚園・・・1人
15～20年・・・0人	県内私立認定こども園・・・10人
20年以上・・・4人	その他・・・2人

受講講座数別人数を見ると、1～3講座の受講が多い。昨年度も同様の傾向があり、長いスパンで計画的に単位を修得しようとする教諭が増えてきている。また、経験年数別人数を見ると、10年以上経験教諭の受講が多いが、10年以下の教諭の受講も見られる。

所属別の受講者数を見ると、私立園からの参加者が主となっているが、昨年度から、公立園からの受講者が増えてきている。市町幼児教育・保育主管課や教育委員会と連携し、今後も公立園への周知に努めていきたい。

### ③ 単位修得者数

開設科目名	認定講習 受講者数	単位修得者数
保育内容指導法（表現）	11人	10人
教職論	8人	8人
幼児心理学	10人	10人
教育原理	9人	9人
保育内容指導法（環境）	7人	7人
幼児と言葉	11人	11人
合計	56人	55人

### ④ 本事業を活用して幼稚園教諭等一種免許状に上進した教員数

山口県教育委員会では、令和元年度から国事業を活用して幼稚園教諭免許法認定講習を実施しており、令和5年度で5年目を終えることとなる。この5年間で、10単位以上を修得した教諭は46人であり、その内、令和5年度1月末現在で一種免許状に上進済みの教諭は34人であった。令和5年10月下旬に認定講習を終了し、12月に単位修得証明書を発行しているため、今

後、上進者がさらに増えるものと考えている。幼稚園教諭免許法認定講習の実施により、上進に必要な単位を修得している本県の教諭は着実に増加している。

また、前述したように、長いスパンで計画的に単位を修得している受講者が増加傾向にある。今後も継続して認定講習を開設していくことが必要である。

#### ⑤ 同時双方向型のオンライン講座の開発・実施

受講者の移動に係る負担を軽減し、受講機会を拡大していけるよう、令和5年度は、同時双方向型のオンライン講座を3講座開設した。受講者のアンケートの自由記述における「住所が県央部から離れているため、オンラインでの参加はとても助かった。」等の意見から、受講者はオンライン形式にメリットを感じていることが伺える。また、「ビデオ視聴やグループ協議もあり、オンラインでも十分に学ぶことができた。」という意見から、講習の内容や方法にも満足している様子を見ることができた。アンケートによる各オンライン講座の満足度も肯定的な回答が100%と高い状況であった。一方で、試験の解答やレポートの送付をメールにて行ったが、アンケートに「当日の試験時間中に解答をメールで提出するのが大変だった。」という感想が挙がり、提出の期限や方法等が課題となった。

対面形式の講座のアンケートには、「他の先生と協働して制作する活動は、対面だからこそできるもので、とても楽しかった。」といった感想が挙がり、実技といった実践的な内容の講座は、対面形式が効果的であることが示唆された。

今後も、講座の内容やねらいに合わせて、対面形式とオンライン形式をバランスよく組み合わせていきたい。

#### ⑥ 「現場の経験」を重視したスタイルの効果的な講座の開発・実施

令和5年度に開設した「保育内容指導法（環境）」では、1日目に「環境」に関する基礎的な内容についてオンラインで講義を行った。受講者は、2日目までの2か月の間、①「チャイルドビジョン」を用いて保育室内を「子どもの視点」から見て気付いたことをレポートのまとめる、②子どもの「環境」に着目しながら保育を行い、「印象に残った子どもの姿」をレポートにまとめる、のいずれかの課題に取り組むこととした。2日目は、持ち寄った課題レポートをもとに受講者同士が対面で協議したり、課題レポートについて講師が解説したりする場を設けることで、受講者が現場での経験を生かしながら、「環境」についてさらに深く学ぶことができるようにした。受講者からは、「学ぶ、実践、協議のスタイルは、内容がリアルなものになってとてもよかった。」「課題の内容が選択できたので、自分の興味関心や現在の状況に応じて学ぶことができた。」等の意見が聞かれ、講座と現場の往還が受講者の学びを深くしていることが伺えた。

さらに、山口大学教育学部附属幼稚園から研究や実践を提供いただき、講義の中で取り上げることで、受講者が先進的且つ実践的な内容について学ぶことができるようにした。具体的には、附属幼稚園の環境図や事例について、受講者で協議をしたり、講師が解説したりした。

来年度も、このような「現場の経験」を生かすことができる講座について研究していきたい。

## ⑦ 受講対象の拡大

令和元年度の認定講習の開設以来、本県では、幼稚園教諭一種免許状への上進を目的とする教諭等のみを受講対象者としてきた。

しかし、受講対象ではない保育者からも、「専門的な内容を学んでみたい。」と参加希望の声があり、また、上進に必要な単位を修得した受講者からも、「今後も自己研鑽のために、認定講習に参加したい。」との声が挙がっていた。

そこで、令和5年度は、上進のための受講者を主としながらも、単位修得者以外にも希望する者の講座受講「希望聴講」を実施した。その際、単位修得のための試験やレポートは課さないこととした。希望聴講者のアンケートの自由記述からは「対面で実技をするなどしてとても楽しかった。」「久々の講義でとても勉強になった。」という感想が挙がり、自ら学びの場を求め、受講を通して学びを実感している受講者の姿が見られた。保育者だけでなく、小学校の教員も自己研鑽や自分の課題解決のために希望聴講として講座を受講していた。自ら学ぶ意欲のある受講者へ学びの場を提供することの必要性を強く感じた。令和6年度も引き続き、この希望聴講を実施したい。

## ⑧ 認定講習全体を通しての受講者の反応

受講者アンケートにおける感想を以下に示す。

- ・日常の保育では気付けなかった事を改めて感じ、初心に戻り学ぶことができた。
- ・自分の立場を改めて考えることができた。明日からの保育に生かしたいと思う。
- ・他園の様々な状況での保育について話を聞くことができ、貴重な時間だった。
- ・心理学はとても興味のある分野なので、2日間有意義な研修となった。

以上のような、講座をきっかけに日々の保育を振り返るとともに、学んだことを保育に生かそうとする意見が多く見られた。講座後のアンケートでは、「講座の内容は、これからの保育に生かせる内容だった。」という項目に対し、肯定的な回答が100%であった。また、自分の興味関心に合わせて講座を選択し学びを深めている受講者もいた。

認定講習の受講が幼稚園教諭の資質・能力の向上及び幼児教育の質の向上につながっていることが伺える。

## ⑨ 認定講習の周知について

認定講習について、より多くの対象者に実施内容やねらい等を認知してもらうため、令和5年度も、令和4年度に引き続き、認定講習のチラシを作成し、配付した。

また、上進に必要な単位数や単位の取り方等について、例年受講者から質問が寄せられていたため、「令和5年度山口県教育委員会免許法認定講習Q&A」も同様に作成した。

さらに、令和5年度は、希望聴講も実施したため、認定講習との違いが一目で分かるよう、フローチャートを作成した。

その結果、昨年度に比べ、手続き等に関する質問は少ない傾向にあった。しかし、希望聴講は実施初年度ということもあり、十分に周知を図ることができなかった。

来年度は、一人でも多くの対象者に認定講習及び希望聴講の情報を届けることができるよう、

より効果的な周知の方法を探っていきたい。

#### ⑩ 検討委員会の意見

令和5年12月に実施した認定講習検討委員会では、以下のような意見が挙げられた。

##### ア 認定講習全般について

- ・参加した教員から話を聞くと、とても勉強になったとのことだった。
- ・県内に免許状を上進できる研修があるのはありがたい。保育の質の向上にもつながっている。
- ・県内で他の園の人たちと知り合うことができるのはとてもよい。
- ・一種免許状の取得を勧めていきたいが、人材の確保ができていないので、研修に出すのが難しい。

##### イ 認定講習の開設時期について

- ・夏季休業中の平日が望ましい。夏季休業中はじっくりと受講することができ、2学期からの保育に活かすことができる。また、園長として、土日の研修を勧めるのは難しい。(幼稚園)
- ・認定こども園は夏季休業という概念がない。夏季休業中にすべての講座があると受講は難しい。
- ・2学期の土日の講習だと14日続けての勤務になり、体力的に大変である。行事もあるため代休も取りにくい。

##### ウ 形式について

- ・県の端の市からは、移動に時間がかかるのでオンラインはよいと思う。
- ・経験を積んでいくと実技の研修はあまりないのでありがたい。
- ・対面形式では、会うことによって、先生同士がつながっていくことができる。

##### エ 希望聴講について

- ・希望聴講はとてもよいと思う。

##### オ 開設講座について

- ・内容を幅広く。幼児教育・保育で大切にしたいこと、新しい時代に即した内容等を取り入れていくように検討していきたい。

##### カ 幼稚園教諭免許法認定講習の受講促進について

- ・分かりやすい案内文を。具体的にどういうことをしているのか一見してわかるように。
- ・上進例にかかる経費も添えて、数パターン示すとよいのではないかと。
- ・園長会等の機会を利用して、周知を行ってみてはどうか。

#### (4) 今後の課題・展望

##### ① 認定講習の周知、受講促進について

受講者数は減少傾向にある一方、前述のとおり受講者や関係団体からは、一種免許状保有に対する支援等の要望を引き続き受けている現状があるため、一定規模の受講者は当面見込まれると予想される。

そのため、今後も継続して、関係団体への働きかけを行ったり、チラシやQ&Aを作成したりすることで、十分に周知を図っていく。併せて、令和6年度から私立幼稚園を対象に「一種免許状保有者確保事業」をスタートさせる学事文書課と緊密に連携を図り、山口県一丸となって上進



のための受講者数の増加をめざしたい。

一種免許状のための講習を、現場からの要望に応じた規模・内容で継続的に実施していくことは、受講機会の拡充にもつながると捉えている。

## ② 認定講習の開催方法、内容について

来年度も、講義が中心となる講座を同時双方向型のオンラインで実施する予定である。その際、グループ協議など、講義内容に対する自分の考えや実践について他者と交流する機会を確保していきたい。一方で、実技的な内容を多く含む講座については対面とするなど、講師との綿密な打合せの上、内容に適した効果的な受講方法を検討するとともに、受講者が自分の都合等に合わせ受講方法を選択できるようにしたい。

また、1日目と2日目の間を開け、理論と現場を往還する講座は、受講者が主体性をもって参加するとともに、具体的な事例をもとに深い協議を行うことができていた。こうした「現場の経験」を生かすことができる講座は、大変効果的であったと感じている。来年度も「現場の経験」を生かすことができる講座内容について研究していきたい。

さらに、現場には、「特別の支援を必要とする子どもに対する支援」や「ICT活用」についてのニーズが高い。このような、現場のニーズに応じた内容の講座を開設できるようにしていきたい。その際、事例をもとにした協議や実技を組み込むことで、受講者が実践に生かすことができるようにしたい。